
サンタさんのプレゼント

留輝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サンタさんのプレゼント

【著者名】

ZZマーク

1

留輝

【あらすじ】

小学生の話です。

幼馴染の少年と少女。

サンタさんからプレゼントをもらいました。

「れーーー！ サンタさんには何もらった？」
小学生になつたばかりだと思われる少年が、プレゼントを手にここにこりと笑つている。

「サンタさんなんていないんだよ」

そんな純粋過ぎる少年を横に、少女はあつさつと現実を告げげる。

「え……」

ついわざとまでにこにこと笑つていた少年の目に涙がたまる。

「サンタさん、いないの？」

「私は悪い子だつたから」

「えー、麗悪い子？」

さすがに、麗と呼ばれる少女も悪いと思つたのか、焦りながら言い訳をする。

「それで、竜は何をもらひたの？」

「ん！」

今日一番の笑顔で、少年はプレゼント箱を少女の前に差し出す。

「開けてないじゃない」「麗と一緒に見ようと思つて！」

純粋過ぎるぐらいの笑顔を少年は見せる。

「……ばつかみたい」

「え？」

「なんでもない。や、開けて」

少女の方も、少年につられてなのか、嬉しそうに笑う。

「「せーのー」」

2人の小さな子どもの声が重なり、一緒に箱を開ける。

「クッキーだよー」

「ほんとだ」

子どものプレゼントにクッキーとは少し驚くことだが。

それでも、2人の子どもは嬉しそうに笑っている。
そして、箱の中のクッキーは、明らかに1人分ではなさそうな量
が入っている。

「麗、一緒に食べよう」

「でも竜のでしょ？」

「だつて、1人じゃ食べきれないし。麗と食べたいもん！」

ただ、ただ純粋に少年は笑う。

「うん！」

少女もまた、笑う。

「おいしいね」

「うん。麗と食べてるから！」

家の外で降る雪のように真っ白な笑顔。
心の底から嬉しそうに、楽しんで。

2人の少年と少女は笑う

(後書き)

正直、めちゃめちゃ恥ずかしい話です。
そしていまだに3人称は難しい……。

<http://ncode.syosetu.com/n4433y/>
の2人が幼いころ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7907z/>

サンタさんのプレゼント

2011年12月25日14時52分発行